

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4075400376		
法人名	有限会社 ハートケアなごみ		
事業所名	グループホームなごみ		
所在地 (電話番号)	〒807-1311 福岡県鞍手郡鞍手町大字小牧字西牟田1969番地 (電話)0949-43-1753		
評価機関名	特定非営利活動法人北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴二丁目5-27		
訪問調査日	平成21年2月27日	評価確定日	平成21年3月24日

【情報提供票より】21年1月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	8 人, 非常勤 人, 常勤換算 7 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 / <u>単独</u>	築3年
建物構造	木造平屋 造り	
	1階建ての	階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(1月25日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名		
要介護3	0 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 84.3 歳	最低	76 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	梅谷外科胃腸科医院 ・鞍手町立病院 ・ヤマチ歯科 ・りんご歯科
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山間の緑と田んぼに囲まれ、のどかな自然環境に恵まれた地域に「グループホームなごみ」がある。ホーム内の花壇には季節の花が植えられ、ベンチに腰掛けると四季折々の風景を楽しむことが出来、今は梅林の満開の花を見ることができる。玄関に入ると利用者の楽しそうな笑い声が聞こえ、時節柄雛人形が飾られ金魚も飼育されるなど落ち着いた雰囲気となっている。地域生活の継続支援を謳った理念に作り変え、地域との交流を更に深めるため、この4月にホームの見学会を予定するなど積極的に地域との交流の機会を図っている。利用者の自立支援を大切にし、管理者、職員が一丸となって介護サービスの質の向上を目指しているグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善点は5件あったが、管理者や職員の努力で4件が改善されている。今後は「重度化や終末期の対応に関する指針作り」「地域住民の協力を得た避難訓練、備蓄の準備」などの課題に対する取り組みが望まれる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者、職員は自己評価、外部評価の意義をよく理解し、今回の自己評価は、管理者、職員全員で取り組み作成している。外部評価の結果についても検討され、サービスの質の改善に繋げている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回、利用者、家族、区長、民生委員、役場職員、管理者、職員で構成している。ホームの現状や行事報告、ホーム前の道幅の狭さなどの問題点が出されるなど双方向的な会議となっている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>玄関には苦情箱を設置しているが、なかなか意見は出ない。相談・苦情窓口を重要事項に明記し説明を行っている。家族の来訪時に意見や要望、苦情などが気楽に話せる雰囲気作りをして運営に反映している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の夏祭りやふれあいフェスタなどに参加したり、地域の盆踊りは、ホームの庭を提供し地域の方も参加する等交流が盛んである。年3回手作りバイキングを開催し、地域、ボランティア、家族が参加し好評を得ている。今年の4月にはホームの見学会を予定しており、地域住民の方との積極的に交流の機会を図る努力をし、今後は楽しみなホームである。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を見直し、「住み慣れた地域の中で地域の一人として、自分らしく生き生きと尊厳のある生活を支援していきます。」と地域生活の継続支援を謳った理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティング時に、運営理念を唱和し確認し合い、日々の業務に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に特別会員として加入し、地域の夏祭りに参加したり、盆踊りをホームの庭で踊ってもらい利用者からも喜ばれている。年3回手作りバイキングを開催し、利用者家族や地域の方を招待し好評を得ている。また、今年の4月には地域の方を対象に見学会を予定しており、ホームをより多くの方に認知してもらい、地域の方との交流を目指している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で取り組み作成している。外部評価の結果を踏まえて、サービスの質の改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月毎に開催し、利用者、家族、民生委員、区長、福祉課職員などが参加し、行事報告やボランティアの要請、公道からホームへの道幅の問題など、活発な意見が出され双方向的な会議となっている。		運営推進会議での議題となっている公道からホームへの道幅が狭く危険なため、行政の協力を得て改善されることが望まれる。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町主催のふれあいフェスタに参加したり、町の介護教室の講師として管理者が講演に行くなど、連携を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	権利擁護に関する制度の理解活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	毎月内部での勉強会を開き、職員の理解を深めるようにしている。事務所に資料を設置し、いつでも閲覧できるようにし、対応が必要な場合には支援できる体制を整えている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、ホーム便りや金銭管理の報告を郵送し、月に1度は必ず来訪してもらっている。来訪時にホームでの生活状況や健康状態の報告、金銭簿の確認のサインをしていただいている。家族の来訪が多く、その都度報告を行っている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情箱を設置し、重要事項説明書に担当者を明記しているが、なかなか意見が出てこないため、家族の来訪時に意見が気軽に言えるような雰囲気作りに工夫している。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この1年での職員の離職はなく、馴染みの職員によるケアが行われている。		
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障	職員の採用に関しては、年齢や性別にこだわることなく採用している。職員が生き生きと働けるように、職員の間で交替で休み時間をきちんと取り、気分のリフレッシュを図っている。		
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりこんでいる	外部での人権研修に、職員が順番で参加している。また、内部での伝達講習を行い、職員への理解を深めている。		
5. 人材の育成と支援					
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の習熟度や希望を取り入れながら、研修の参加が出来るように、勤務の調整をおこない参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡協議会に加入し、勉強会などで同業者との交流を行っている。また、他のグループホームへの相互訪問などを活かして、サービスの質の向上に努めている。		
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者、家族に見学に来てもらい、ホームの雰囲気や職員達と徐々に馴染めるように工夫している。体験入居も希望に応じ対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、利用者から生活の知恵やことわざ、料理などを教えてもらい、支え合う関係を築き、和やかな生活が送れるよう支援している。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望を聴取したり、意思疎通が困難な方には家族から情報を得たり、日常生活の中で意向を汲み取り検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで利用者一人ひとりの、毎日の様子、変化、ケアについて全職員で意見を出し合い、それに基づいて本人、家族と相談の上、介護計画を作成している。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本は3ヶ月に1回見直しを行っている。利用者の心身状態に変化があった場合は、その都度話し合い、検討見直しを行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、家族の状況に応じて、通院介助の支援を行うなど柔軟な対応を心がけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医に週に1度、往診に来てもらっている。また、24時間連携体制をとり、利用者の急変時には、対応できるように支援している。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用契約時に、「急変時における確認書」について説明し、記名、捺印をもらっている。その時々本人、家族の意向を確認しながら終末期の対応方針の共有を図っている。		重度化や終末期に向けた指針を作成し、関係者全体の方針の統一を図ることが望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損なわない対応、尊厳のある生活を支援している。個人記録など個人情報の取り扱いには、十分に配慮している。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や消灯時間などは決めておらず、一人ひとりの生活リズムを大切に、その日の状態や希望に沿って柔軟な支援がなされている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が食事の準備や配膳、後片付けなどを一緒に、職員も全員、利用者と同じテーブルで食事を摂ることで、会話が弾み楽しい時間が共有できている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は、基本的に2日に1回だが利用者の希望に応じて対応している。入浴時間は利用者の希望時間にゆっくと寛げるように配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの趣味や力を活かして、洗濯たたみや食事の準備、後片付けなど利用者の経験や知恵を活かせる場面を作っている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個別で温泉入浴や映画鑑賞、ドライブなどに出かけている。月に1回は外食を楽しんだり、天気の良い日には散歩に出かけたりと、利用者の希望に沿った支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者、職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は玄関に鍵をかけていない。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と合同での訓練と事業所の自主訓練とで、年に2回行い、夜間想定訓練も行っている。		地域住民の協力を得て、合同での避難訓練の実施や災害時に備えての、飲料水や非常食、毛布などの備蓄の準備が望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事や水分の摂取量を毎回記録し、職員は情報を把握している。入居当時はきざみ食だった利用者が、職員の工夫や支援によって、今では普通食をたべられるように改善されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは天井が高く、明かり取りの窓からは自然光が暖かく降り注いでいる。キッチンからはリビングが一望でき、利用者とは話ししながら食事作りが出来るようになっている。ホーム周辺の景色が良く、廊下にソファを設置しゆっくりと景色を楽しむことが出来るよう配慮されている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者の使い慣れた家具や日用品、仏壇など本人が居心地よく過ごせるように配慮している。各居室からの景色がよく、山や畑、夜には街灯が美しいと利用者も喜ばれている。		